

このまちの100年

「池袋」

明治後期に日本鉄道の池袋駅が開業後、大正期を経て乗り入れ路線も増加し、交通の要衝となります。関東大震災前後からの東京西郊の住宅地化に伴い、乗り換え駅としてさらに発展。現在、副都心として成長しています。



昭和戦前期

大正期に池袋と川越方面を結ぶ東上鉄道が開通。写真は昭和戦前期の池袋駅西口の風景



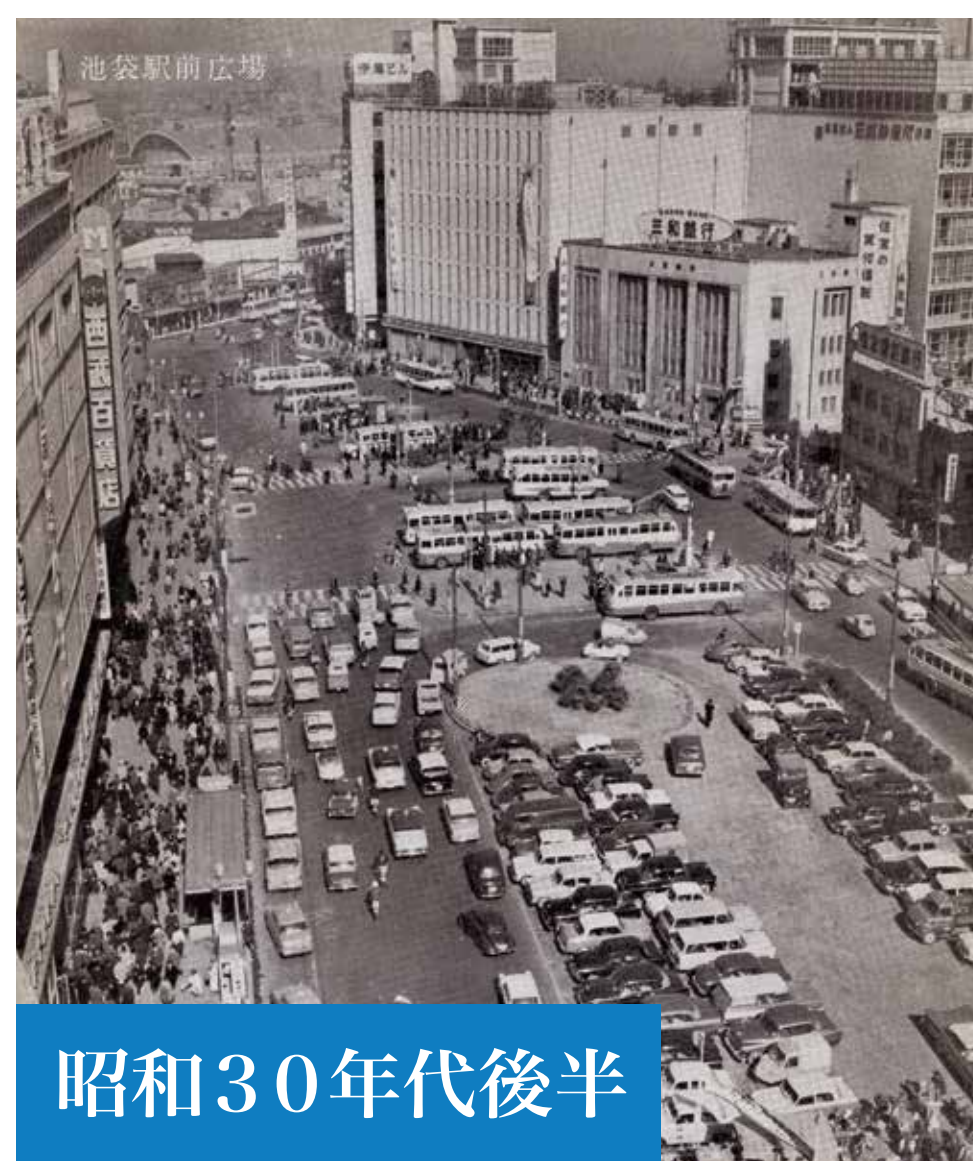
昭和戦前期

武蔵野鉄道(現在の西武池袋線)の池袋駅改札口の様子



昭和30年代後半

昭和32年に開店した東京丸物。屋上には遊園地があった



昭和30年代後半

戦後、池袋駅の周辺には、西武百貨店や三越池袋店などが開店した



昭和30年代後半

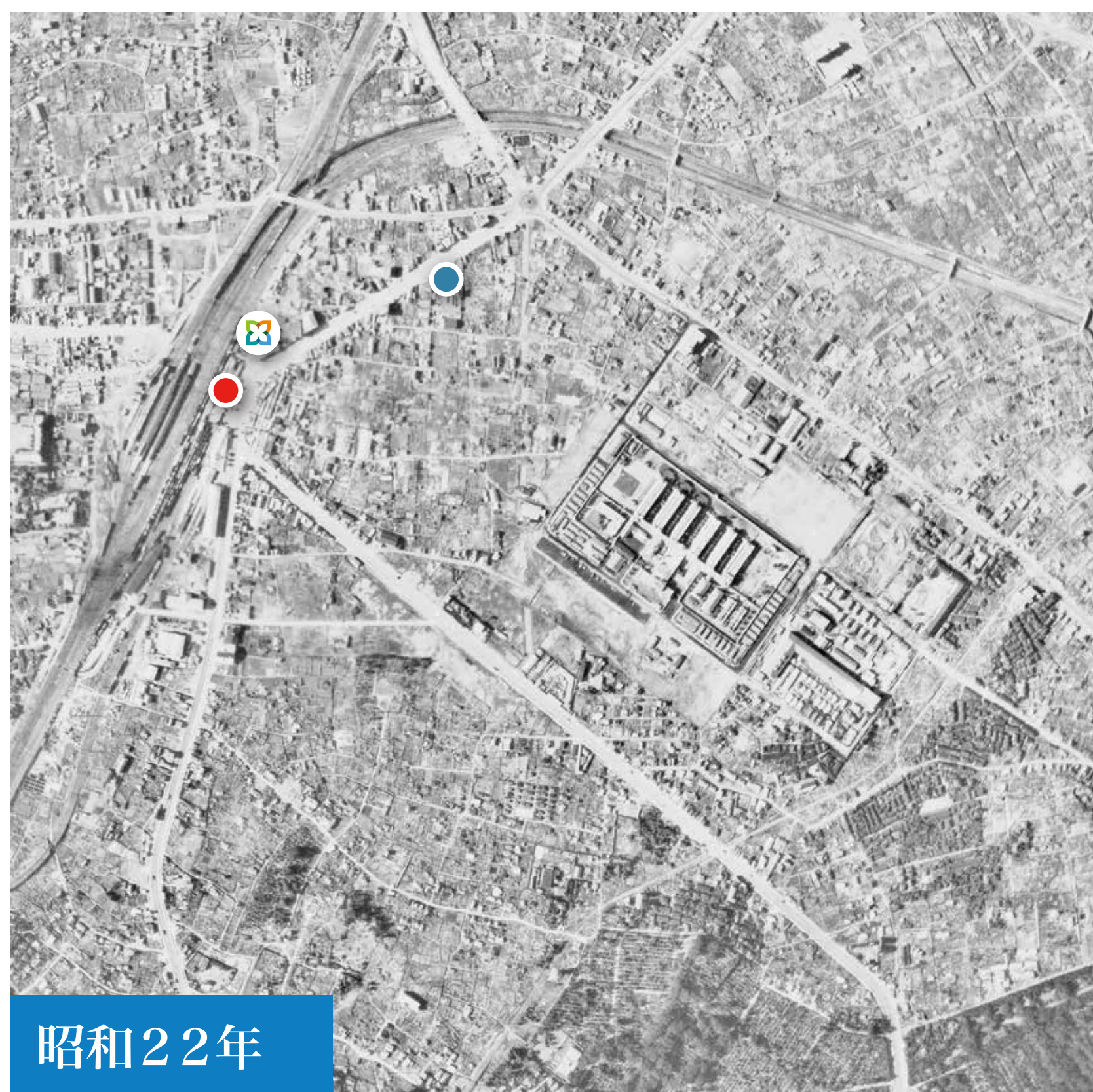
オープン当時、『世界一広い』と銘打った、池袋スケートセンター



昭和30年代

西武百貨店付近の夜景。手前の道路は現在のグリーン大通り

上空からみた池袋エリア



昭和22年



昭和50年



令和元年

：現在地
：豊島区役所 ：サンシャイン60 ：池袋駅

出典：国土地理院「地図・空中写真閲覧サービス」(一部加工)

編集：株式会社コロマチ